

どんぐり村の こみ・すく通信

令和5年4月10日発行

令和5年度 第2号

更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

令和4年度の実践から みんなの学校応援団の活動を紹介 更別村の未来について考えよう

3月6日、更別中央中学校全学年道徳の時間に「郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度を育てる」ことを目標に、役場企画政策課の今野さんが来校し講話をしてくださりました。

今野さんは、更別村の現状と課題、今回採択された「更別村SUPER VILLAGE(スーパービレッジ)構想」の事業概要、未来に生きる生徒の皆さんにはどんな力を付けてほしいかなど熱い思いを伝えてくれました。



更別村は人口減少、高齢化が課題。地域の課題解決のためにデジタルの力で何とかしたいと考えています。

これからの時代は、問題解決する力とチャレンジ精神が大事です。「未来」は目指すものであり、皆さんが創るものです。



大型モニターとタブレットを使って遠隔で講話

【生徒アンケート一部から】

1 村のデジタル化の取り組みについて知っていましたか？

○はい・・・60%

○いいえ・・・40%

2 この村にとってどんなデジタルが必要？

○農業機械・医療のデジタル化など多数

3 感想等

○更別村のデジタル化だけでなく、更別村の歴史なども一緒に学ぶことができよかった。

○未来は自分たちにかかっていると聞いて一生懸命勉強しようと思った。

○自分も更別のために何かできるか、更別村を支えられる仕事に就きたいと考えることができた。

○更別村の現状について深く考えることができた。最先端の技術の導入が不可欠だと思うが、費用との兼ね合いを考えると難しいと思う。住民に意見を仰いで、より良い意見を選出して実行することが重要だと思う。

「皆さんのことを大事に思っている人、皆さんの幸せを心から願っている人がいます」

3月8日、更別中央中学校3年生の道徳で更別診療所長であり、「さらべつほーぷ」の代表でもある山田医師と「ほーぷ」メンバーが

死ぬまでの物語の一つとして同じものはなく、一つ一つの「生」にも物語があります。

1人1人がかけがえない存在としてこの世に生を受け、誰にも肩代わりすることのできない物語(人生)を生きています。終わりがあるからこそ、自分の物語も他の人の物語も大切にしてほしいのです。

「生と死」を題材にして「生きることを考える」授業をしてくださいました。



大切な命の花をしっかりと咲かせてほしい

更別中央中学校2年生が3月8日に、子育て応援課助産師の中谷さん、保健師の藤平さんに来校いただき「セクシャリティと思春期の性」について学びました。



命が誕生する瞬間はいつも感動的。喜び、安堵、感謝で涙する。間違いなく、みんな望まれ喜ばれた大切な存在です。

授業では、性の多様性、人権、プライベートゾーンの扱い方、思春期の身体や精神の変化について教えていただきました。

生命誕生を知り、自分の生き方を考えよう

更別中央中3年生が3月10日に、帯広厚生病院アドバンス助産師の三守由記さんに来校いただき「心とからだ」の性の部分についてご指導いただきました。

命は限りなく尊いこと、相手の人格を尊重すること、妊娠・性病などについての正しい知識をもち、適切な判断力、行動力をつけることなどを分かりやすく教えてくださいました。



生まれてくれてありがとう！
幸せな未来を願っています。